

令和7年度全国学力・学習状況調査～御浜町の結果概要～

令和7年9月1日
御浜町教育委員会

1. 各教科の「平均正答率」及び「平均正答数」、IRT スコア（中理科）

【小学校】 6年生：54名	国語（14問）	算数（16問）	理科（17問）
御浜町	65%（9.1問）	55%（8.8問）	58%（9.9問）
三重県	66%（9.3問）	57%（9.1問）	56%（9.5問）
全国	66.8%（9.4問）	58.0%（9.3問）	57.1%（9.7問）
全国平均との差	-1.8 pt（-0.4問）	-3.0 pt（-0.5問）	+0.9 pt（+0.2問）

➤ 町平均正答率(数)は、理科は全国平均を上回りましたが、国語、算数は少し下回りました。

【中学校】 3年生：48名	国語（14問）	数学（15問）	理科（26問） IRT スコア（※）
御浜町	46%（6.5問）	41%（6.2問）	484
三重県	53%（7.5問）	47%（7.1問）	498
全国	54.3%（7.6問）	48.3%（7.2問）	503
全国平均との差	-8.3 pt（-1.1問）	-7.3 pt（-1.0問）	-19

➤ 町平均正答率(数)は、国語、数学、理科(IRT スコア)ともに全国平均を下回りました。

(※)「IRT スコア」について

○IRT(Item Response Theory:項目反応理論)とは

国際的な学力調査(PISA,TIMSS など)や英語資格・検定試験(TOEIC・TOEFL など)で採用されているテスト理論。この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし(尺度)で比較できる。中学理科の調査は、1人1台端末を用いて4日間にわたってオンライン形式で実施されたため、IRT が導入された。(詳しくは、下の【参考1・2】をご覧ください。)

○「IRT スコア(学校や自治体ごとの結果)」と、「IRT バンド(個人の結果)」

「IRT スコア」は学力を500を基準にした得点で表す。「IRT バンド」は3を基準に1～5の5段階に区切ったもの。いずれも難易度の高い問題に正答すると高めに、難易度の低い問題に誤答すると低めに算出される。

【参考1】

【参考2】

【参考1】「中学校理科」IRT を用いた結果返却について〈文科省〉
(IRT についての詳しい説明資料)

【参考2】中学校理科 調査結果(IRT バンド)の見方〈文科省〉



◎「標準化得点」による経年変化の比較

全国学力・学習状況調査の各教科の問題は、毎年、問題数や難易度が異なることから、平均正答数や正答率では経年変化の比較はできません。そこで、全国平均正答数を100とした標準化得点によって経年変化を見ると、次のページのようになります。

小学	R7	R6	R5	R4	R3	中学	R7	R6	R5	R4	R3
国語	99	96	99	96	96	国語	96	97	98	98	99
算数	99	99	101	97	97	数学	98	98	100	99	101
理科	101			97		理科	98			98	
全国	100	100	100	100	100	全国	100	100	100	100	100

- 小学校では、算数はR6年度と変わりませんでしたが、国語が3 pt 上昇し、理科も前回(R4)より4 pt 上昇しました。
- 中学校では、R6年度と比較すると、国語は1pt 下回りましたが、数学はR6年度と、理科は前回(R4)と同じでした。

2. 各教科における傾向

【小学校】 ○よくできた △比較的できた ▲少し課題がある ●課題がある

国 語	○思考力・判断力・表現力「A 話すこと・聞くこと」3/14 問 町 72.8% (国 66.3) +6.5pt ex [問題番号 1 一 (選択式)] 「【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選ぶ」は、正答率 70.4% (国 53.3) +17.1pt ●思考力・判断力・表現力「B 書くこと」3/14 問 町 63.6%、(国 69.5) -5.9pt ex [問題番号 2 一 (選択式)] 「【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選ぶ」は、正答率 51.9% (国 65.5) -13.6pt ●思考力・判断力・表現力「C 読むこと」4/14 問 町 52.3%、(国 57.5) -5.2pt ex [問題番号 3 二 (2) (選択式)] 「【資料 3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選ぶ」は、正答率 42.6% (国 51.3) -8.7pt 問題形式で見ると ▲「選択式」9/14 問 町 63.2% (国 64.7) -1.5pt ▲「短答式」3/14 問 町 77.1% (国 78.4) -1.3pt ▲「記述式」2/14 問 町 55.6% (国 58.8) -3.2pt
	▲「A 数と計算」8/16 問 町 57.9% (国 62.3) -4.4pt ex [問題番号 3 (2) (記述式)] 「$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について、共通する単位分数と、それぞれ共通する単位分数の幾つ分になるかを書く」については、正答率 16.7% (国 23.0) -6.3pt △「B 図形」4/16 問 町 56.0% (国 56.2) -0.2pt ex [問題番号 2 (3) (選択式)] 「角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ」は、正答率 83.3% (国 79.3) +4.0pt ●「C 変化と関係」3/16 問 町 50.0% (国 57.5) -7.5pt ex [問題番号 4 (1) (選択式)] 「新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるか調べるために、必要な事柄を選ぶ」は、正答率 72.2% (国 82.8) -10.6pt 問題形式で見ると ▲「選択式」6/16 問 町 66.4% (国 67.3) -0.8pt ▲「短答式」6/16 問 町 62.0% (国 64.0) -2.0pt ●「記述式」4/16 問 町 27.8% (国 34.9) -7.1pt

理 科	<u>△「エネルギー」を柱とする領域 4/17 問 町 49.5% (国 46.7) +2.8pt</u> ex〔問題番号 2 (4) (選択式)〕「乾電池 2 個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ」については、正答率 72.2% (国 55.1) +17.1pt <u>△「粒子」を柱とする領域 6/17 問 町 51.2% (国 51.4) -0.2pt</u> ex〔問題番号 4 (1) (短答式)〕「水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く」は、正答率 57.4% (国 50.6) +6.8pt <u>▲「生命」を柱とする領域 4/17 問 町 49.5% (国 52.0) -2.5pt</u> ex〔問題番号 3 (3) (選択式)〕「ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ」は、正答率 55.6% (国 62.0) -6.4pt <u>△「地球」を柱とする領域 6/17 問 町 69.4% (国 66.7) +2.7pt</u> ex〔問題番号 4 (2) (選択式)〕「水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ」については、正答率 68.5% (国 64.2) +4.3pt 問題形式で見ると <u>△「選択式」 11/17 問 町 54.9% (国 54.7) +0.2pt</u> <u>△「短答式」 4/17 問 町 70.8% (国 69.7) +1.1pt</u> <u>○「記述式」 2/17 問 町 53.7% (国 45.2) +8.5pt</u>
--------	--

【中学校】

国 語	●思考力・判断力・表現力「A 話すこと・聞くこと」 4/14 問 町 43.6% (国 53.2) -9.6pt ex〔問題番号 2 一 (選択式)〕「スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選ぶ」は、正答率 23.4% (国 38.1) -14.7pt ●思考力・判断力・表現力「B 書くこと」 5/14 問 町 41.7% (国 52.8) -11.1pt ex〔問題番号 1 三 (選択式)〕「チラシの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する」は、正答率 51.1% (同全国 63.3) -12.2pt ●思考力・判断力・表現力「C 読むこと」 3/14 問 町 52.5% (国 62.3) -9.8pt ex〔問題番号 3 一 (選択式)〕「物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものを選択する」は、正答率 63.8% (国 80.0) -16.2pt 問題形式で見ると ●選択式 8/14 問 正答率 57.4% (国 63.9) -6.5pt ●短答式 2/14 問 正答率 59.6% (国 73.6) -14.0pt ●記述式 4/14 問 正答率 17.0% (国 25.3) -8.3pt
数 学	●「A 数と式」 5/15 問 町 34.0% (国 43.5) -9.5pt ex〔問題番号 2 (短答式)〕「果汁 40% の飲み物 a mL に含まれる果汁の量を a を用いた式で表す」は、正答率 42.6% (国 51.9) -9.3pt ▲「B 図形」 4/15 問 町 41.0% (国 46.5) -5.5pt ex〔問題番号 9 (1) (選択式)〕「四角形 AECF が平行四辺形であることの証明を振り返り、新たにわかることを選ぶ」は、正答率 48.9% (国 58.5) -9.6pt

(数学：次ページへ続く)

数 学	▲「<u>C関数</u>」3/15問 町 43.3%（国 48.2）-4.9pt ex〔問題番号 8（2）（記述式）〕「A 駅から 60.0km の地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する」は、正答率 21.3%（国 38.0）-16.7pt ●「<u>Dデータの活用</u>」3/15問 町 52.5%（国 58.6）-6.1pt ex〔問題番号 5（短答式）〕「ある学級の生徒 40 人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上 25m未満の階級の相対度数を求める」は、正答率 34.0%（国 42.5）-8.5pt 問題形式で見ると ▲選択式 3/15問 正答率 51.1%（国 54.0）-2.9pt ●短答式 7/15問 正答率 45.0%（国 52.0）-7.0pt ●記述式 5/15問 正答率 30.6%（国 39.6）-9.0pt
理 科	➤ 中学理科は CBT 方式で 4 日間に分散して実施された。町内はうち 3 日《4/14（尾中）、4/15（御中）、4/17（阿中）》に分けて実施された。 ➤ 生徒 1 人が解く問題数は 26 問。このうち公開問題が 10 問、非公開問題は 16 問。非公開問題は内容・難易度等の異なる問題を出題しており、生徒ごとに異なる問題を解いている。よって、<u>以下の通り全員に出題された全日程共通問題 6 間について分析する。</u> ▲「<u>エネルギーを柱とする領域</u>」 〔問題番号 1（1）（選択式）〕「電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く温まる装置を選択する」は、正答率 47.9%（国 51.9）-4.0pt ▲「<u>粒子を柱とする領域</u>」 〔問題番号 1（2）（記述式）〕「理科の実験では、なぜ水道水でなく精製水を使うのかな？という疑問を解決するための課題を記述する」は、正答率 41.7%（国 46.2）-4.5pt ○「<u>地球を柱とする領域</u>」 〔問題番号 1（3）（選択式）〕「地層 1 から地層 4 までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する」は、正答率 43.8%（国 36.2）+7.6pt ●「<u>生命を柱とする領域</u>」 〔問題番号 1（4）（選択式）〕「生物 1 から生物 4 までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する」は、正答率 20.8%（国 29.7）-8.9pt ●「<u>粒子を柱とする領域</u>」 〔問題番号 1（5）（短答式）〕「塩素の元素記号を記述する」は、正答率 29.2%（国 44.9）-15.7pt △「<u>粒子を柱とする領域</u>」 〔問題番号 1（6）（記述式）〕「水道水と精製水に関する 2 人の発表を見て、探求の過程におけるあなたの振り返りを記述する」は、正答率 79.2%（国 79.4）-0.2pt

*町全体の各教科における傾向は、上記のような課題が挙げられます。しかし、各学校での成果や課題については、それぞれ特徴や傾向が異なるので、夏季休業中に校内研修会や中学校 3 校合同の教科部会（国・数・理）を開催するなど、各校において詳細な分析・検討に取り組みました。今後も県教育委員会と連携しながら、今回の調査結果を授業や指導方法の改善に生かせるよう指導・支援していく予定です。

3. 質問調査（児童生徒・学校）における特徴的な傾向

① 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 【小学生】 1 * 肯定的な回答の割合

質問項目	R7	R6	R5	前年との比較
(31) 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	69.6%	68.4%	68.5%	+1.2pt
(32) 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	80.3%	80.0%	87.7%	+0.3pt
(35) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか	87.5%	85.0%	84.2%	+2.5pt

【中学生】 1

質問項目	R7	R6	R5	前年との比較
(31) 1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	69.4%	66.0%	75.8%	+3.4pt
(32) 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	85.7%	86.8%	82.7%	-1.1pt
(35) 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか	85.7%	92.4%	79.3%	-6.7pt

【学校】 1

質問項目	R7	R6	R5	前年との比較
(25) 調査対象学年の児童生徒は、受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。	100%	100%	85.7%	±0pt
(26) 調査対象学年の児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどの工夫をして、発言や発表を行うことができていると思いますか。	71.4%	100%	71.4%	-28.6pt
(32) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。	85.7%	85.7%	85.7%	±0pt

◎「工夫して発言や発表できる」については、肯定的な意見が児童生徒・学校ともに70%前後と少し課題が見られる。グループでお互いに協力しながら資料や文章などを活用した発言や発表につなげられるような指導を心がける必要がある。

◎一方で、昨年度までと同様に、80%以上の児童生徒は主体的に課題の解決に取り組み、グループ学習での対話を通じて考えを深めたりすることができている。また、各学校においても「主体的・対話的で深い学び」に積極的に取り組んでいることが伺える。全国的に見ても、主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える児童生徒ほど各教科の正答率も高いという傾向もあるため、今後も継続して「主体的・対話的で深い学び」の取組を進めていく必要がある。

② ICT 機器の活用

【小学生】 2

* 肯定的な回答の割合

質問項目	御浜町	全 国	全国との比較
(28) 5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか《回答…ほぼ毎日の数値》	44.6%	46.7%	-2.1pt
(29-1) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか	85.7%	81.8%	+3.9pt
(29-2) あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか	87.5%	89.8%	-2.3pt
(29-3) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか	60.7%	69.3%	-8.6pt
(29-4) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか	66.1%	76.7%	-10.6pt

【中学生】 2

質問項目	御浜町	全 国	全国との比較
(28) 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しました 《回答…ほぼ毎日の数値》	77.5%	53.2%	+24.3pt
(29-1) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか	83.6%	83.6%	±0.0pt
(29-2) あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べる）ことができると思いますか	89.8%	91.5%	-1.7pt
(29-3) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか	49.0%	63.3%	-14.3pt
(29-4) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか	69.4%	76.6%	-7.2pt

◎活用場面については、小中ともに文章作成や情報収集などで活用が進んでいるが、情報の整理やプレゼンテーション作成のような発表にかかわる活動が若干低い傾向にあり、今後のICT教育を推進するうえでの検討課題である。

◎一方で、ICT 機器を「ほぼ毎日」授業で活用している使用頻度が、小学校で全国とほぼ同じ、中学校では全国平均を大きく上回っている。全国的に見て、ICT 機器の使用頻度と各教科の正答率には一定の相関があるので、今後も継続して効果的な利活用に取り組む必要がある。

③ 自己肯定感に関する状況

【小学生】 3

* 肯定的な回答の割合

質問項目	御浜町	全 国	全国との比較
(5) 自分には、よいところがあると思う	71.4%	86.9%	-15.5pt
(6) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	78.6%	92.2%	-13.6pt
(7) 将来の夢や希望を持っていますか	82.1%	83.1%	-1.0pt

【中学生】 3

質問項目	御浜町	全 国	全国との比較
(5) 自分には、よいところがあると思う	79.6%	86.2%	-6.6pt
(6) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	89.8%	92.2%	-2.4pt
(7) 将来の夢や希望を持っていますか	71.5%	67.5%	+4.0pt

◎自己肯定感については、小中ともに全国平均より低い傾向が見られ、小では教師からの承認満足度が若干低い傾向も見られる。しかし、将来の夢や希望を持っている児童生徒は数多くいるので、自己肯定感を向上させるために、わかりやすい授業づくりはもとより、キャリア教育や地域の方との関わりを大切にした体験学習に取り組み、児童生徒の夢や希望を伸ばし、自信を持った行動ができるような指導を、今後も継続していく必要がある。

④ 規範意識

【小学生】 4

* 肯定的な回答の割合

質問項目	御浜町	全 国	全国との比較
(8) 人が困っているときは、進んで助けますか	94.7%	93.7%	+1.0pt
(9) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	92.8%	97.2%	-4.4pt
(11) 人の役に立つ人間になりたいですか	96.5%	96.4%	+0.1pt

【中学生】 4

質問項目	御浜町	全 国	全国との比較
(8) 人が困っているときは、進んで助けますか	91.9%	90.9%	+1.0pt
(9) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.0%	95.9%	+0.1pt
(11) 人の役に立つ人間になりたいですか	95.9%	96.6%	-0.7pt

◎規範意識については、昨年に引き続いて、小中とも 90%以上の高い水準で肯定的な回答をしており、特に中学生の規範意識は高い。これも、各学校で人権学習に積極的に取り組んでいる成果であると同時に、保護者や地域の方との関わりや交流の中で規範意識

の大切さについて学ぶ機会が多く持てているおかげでもあると言える。

⑤ 生活習慣

【小学生】 5

* 肯定的な回答の割合

質問項目	御浜町	全 国	全国との比較
(1) 朝食を毎日食べていますか	89.3%	93.7%	-4.4pt
(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	89.3%	81.9%	+7.4pt
(3) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	83.9%	91.0%	-7.1pt

【中学生】 5

質問項目	御浜町	全 国	全国との比較
(1) 朝食を毎日食べていますか	95.9%	91.2%	+4.7pt
(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	89.8%	81.0%	+8.8pt
(3) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	95.9%	92.6%	+3.3pt

◎生活習慣については、およそ 10%の児童が朝食を毎日食べていないことが気にかかるものの、小学生はほぼ全国平均並み、中学生では全国平均を上回るなど、小中ともに肯定的な回答が 90%前後となっている。このことは、多くの家庭において基本的な生活習慣が身につくよう適切な指導をいただいていることが伺える。

⑥ 学習習慣

【小学生】 6

* 肯定的な回答の割合

質問項目	御浜町	全 国	全国との比較
(17) 学校の授業時間以外に、普段、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか《1 時間以上》	39.3%	54.0%	-14.7pt
(19) 学校が休みの日に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか《1 時間以上》	25.0%	47.1%	-22.1pt

【中学生】 6

質問項目	御浜町	全 国	全国との比較
(17) 学校の授業時間以外に、普段、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか《1 時間以上》	46.9%	61.6%	-14.7pt
(19) 学校が休みの日に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか《1 時間以上》	42.9%	57.9%	-15.0pt

◎令和 3 年度以降、全国的にも家庭学習の時間は減少傾向が続いており、本町においても同様に、学習習慣の定着はここ数年の課題となっている。今年度も小中とも全国平均を下回る結果となった。

◎家庭での学習習慣は、学習内容の定着を大きく左右するため、各学校において学習に主体的に取り組む姿勢や意欲を育むとともに、各家庭にも協力をお願いし、学習習慣の定着を図っていく必要がある。

⑦ 学習への意欲・関心

【小学生】 7

* 肯定的な回答の割合

質問項目	御浜町	全 国	全国との比較
(45) 国語の勉強は好きですか	58.9%	58.3%	+0.6pt
(46) 国語の授業の内容はよく分かりますか	91.1%	82.8%	+8.3pt
(53) 算数の勉強は好きですか	64.2%	57.9%	+6.3pt
(54) 算数の授業の内容はよく分かりますか	85.7%	78.3%	+7.4pt
(61) 理科の勉強は好きですか	75.0%	80.1%	-5.1pt
(62) 理科の授業の内容はよく分かりますか	80.3%	88.9%	-8.6pt

【中学生】 7

質問項目	御浜町	全 国	全国との比較
(45) 国語の勉強は好きですか	36.7%	57.9%	-21.2pt
(46) 国語の授業の内容はよく分かりますか	71.4%	77.0%	-5.6pt
(53) 数学の勉強は好きですか	59.2%	53.8%	+5.4pt
(54) 数学の授業の内容はよく分かりますか	93.9%	70.3%	+23.6pt
(61) 理科の勉強は好きですか	61.2%	63.8%	-2.6pt
(62) 理科の授業の内容はよく分かりますか	79.6%	71.4%	+8.2pt

◎学習への意欲・関心は、小学生では全国平均よりやや高く、中学生ではやや低い傾向にある。特に中学生は数学に関する意欲は高いが、国語に関する意欲は低い。また、授業内容についても、全体的に「よく分かる」との肯定的な意見が多く、特に中学数学については、90%以上と全国平均より20pt以上も高い。

◎これらの学習に対する意欲・関心や理解の様子を、今後の成果や結果につなげていくためにも、家庭学習など学習習慣の定着は大切である。

⑧ 地域との関わり、社会への関心

【小学生】 8

* 肯定的な回答の割合

質問項目	御浜町	全 国	全国との比較
(27) 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	76.7%	81.3%	-4.6pt

【中学生】 8

質問項目	御浜町	全 国	全国との比較
(27) 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	69.4%	75.3%	-5.9pt

◎小中ともに全国平均をやや下回っているが、各学校とも地域との関わりを大切にした教育活動を進めているので、決して児童生徒の地域や社会への関心は低くないと言える。今後も、各学校において保護者や地域の方との交流や体験学習、主権者教育などに取り組み、郷土に対する愛着や誇りを持たせることにより、地域や社会に対する関心を高めしていく教育活動を継続して進めていく必要がある。

4. 今後の町教育委員会の取組（改善に向けて）

町教育委員会では、全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックの結果から、児童生徒の学力・生活習慣や各学校の授業改善の取組の成果と課題をとらえ、教育施策に反映していく予定です。具体的には、次のような年間を通じた各学校の主体的な取組を支援する「授業力向上支援事業」を中心に、各学校の連携・協力も大切にしながら、組織的・継続的な学力向上の取組を進めていきます。

① 授業改善を目的とした公開授業研究会の開催、県内外の「主体的・対話的で深い学び」の実践に取り組む研修会等への参加、先進校視察

- ・誰一人取り残すことのない授業実践を目指して、町内各校において著名な大学教授等をスーパーバイザーとして招聘した公開授業研究会を年間を通して計画的に開催する。（各校年3回の開催）
- ・各学校において、校長がリーダーシップを発揮して授業改善研修を推進するためのマネジメント研修会を開催する。（年3回の開催、講師は大学教授等のスーパーバイザー）
- ・全国的な研究大会等への参加や、協働と探究の学びの実践に取り組んでいる先進的な学校の視察などを通じて研修を深め、授業改善に努める。

② 全国学力・学習状況調査・みえスタディ・チェックの活用

- ・児童生徒の自己肯定感を大切に、前向きに挑戦し学び続ける児童生徒を育成するため、全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックを活用した事前・事後の取組をすすめ、その分析結果をもとに授業や指導方法の改善に取り組む。
- ・中学校3校の合同教科部会（国・数・理）を開催し、学力・学習状況調査の結果分析に連携・協力して取り組む。（ベテランと若手の連携）

③ 町全体としての組織的・系統的な研修体制の構築

- ・町内教職員全員が、他校の公開授業研究会に参加し、各自の研修を深めるとともに、各学校が連携・協力した組織的な研修体制につなげる。（児童生徒理解を深めるために、校種や規模の異なる他校の公開授業研究会への参加も推奨）
- ・研修委員会等で全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックを活用した授業改善の取組を共有し、町全体として組織的な研修体制の構築をすすめる。

今後も、これらの事業を中心として、県教育委員会と連携し、児童生徒のよりよい学びに向けた各学校の取組への指導・支援に取り組んでまいります。